

○井野政府参考人 桜を見る会に關しますことし資料につきましては、一年未満の文書というふうに整理させていただいておりまして、ことしの資料につきましては、もう既に開催が終わりま

○宮本委員 とんでもない話ですよ。これはちよつと、私、きょうは会計検査院を呼んでいないですけども、会計検査院にもお願いしなきゃいけないような話じゃないですか。予算と全く違う支出を行つて、その書類は、メディアに取り上げられたからかどうかわからないですけども、恐らく、過去にさかのぼって全部破棄したことしよう、そういうふうにしてるとしか私はとて思えないですよ。

報道を見ますと、内閣府によると関係省庁が各界各層から推薦する以外に与党の推薦者もおり人数は与党絡みの方が多いというところ。

内閣府は、こういうことなんですか、各界から関係省庁が推薦する以外に与党の推薦者もおり、人数は与党絡みの方が多い、これはメディアに対して内閣府が回答しているようなんですけれども、このとおりですか。

○井野政府参考人 報道等がどのようにそのようにされたのかにつきましては、承知しておりません。

○宮本委員 いや、報道がどうされたかじゃなくて、報道の中身が事実かを聞いているんですよ。与党の推薦者もおり、人数は与党絡みの方が多いというのは事実ですか。

○井野政府参考人 招待者取りまとめの過程における詳細なプロセスにつきましては回答は控えさせていただきます。招待者につきましては、開催要項に基づきまして、各省庁からの意見等を踏まえ、内閣官房及び内閣府において最終的に取りまとめられているところでございます。

○宮本委員 では、各省庁から意見等の等の中には、この報道のとおり、与党の推薦者もいるとい

うことでよろしいわけですね。否定されないということですね。

○井野政府参考人 各省庁からの意見をもとに取りまとめさせていただいております。

○宮本委員 では、その各省庁が意見を出す際に、与党の意見も聞いているというのもあり得るということですね。

○井野政府参考人 各省庁がどのように意見を出しているのかにつきましては承知してございませうけれども、我々も聞かしては、各省庁からの意見等を踏まえまして取りまとめを行つて

○宮本委員 否定されないわけですよ。ですから、内閣官房からの推薦リストには、与党関係の方からの推薦のものがたくさんあるんじゃないですか。

先週、決算委員会でも取り上げさせていただきましたけれども、ネット番組の「虎ノ門ニュース」というのがあるそうですが、ことしは例年と異なり、ネット番組「虎ノ門ニュース」の出演者全員でというお招きだったため、虎ノ門ファミリーの皆さんとともに参加した、こういう参加の仕方になっているわけです。

私たち国会議員のところに来るのは、ぜひ夫婦同伴でということしか書いていないですよ。皆さんのところに来るのもそうだと思いますけれども、私のところに来るのもそうですよ。

こんな出演者全員でなんて、こういうやり方が一部の方にはやられているという話なんですね。私は、これは極めて不透明な基準でやられていると思いますよ。しかも、予算計上額は変えないまま、そして表面の招待者数は一万人目安とい

○井野政府参考人 桜を見る会を開催するに当たりましては、毎年、そのやり方、詳細を検討しているところでございます。来年度につきましては、適切に検討することになると思います。

○宮本委員 毎年検討して、来年度は適切にやるという、それだけですか。今のやり方が適切なんですか。

一人目安といつて毎年確認しておきながら、基準不透明なまま招待客をどんどんふやして、予算の三倍も支出する。誰がどう考えてもおかしいじゃないですか。是正すると言つてください。

○井野政府参考人 先ほど申し上げましたとおり、内閣官房及び内閣府におきまして最終的に取りまとめるところ、結果的に招待者及び参加者がふえたものでございます。

○宮本委員 まるで今までの対応がよかつたかのような、とんでもない姿勢ですよ。

私は、こういうやり方をしておいて、財政が大変だから消費税増税してくれというのは、絶対国民の理解は得られないです。それは強く申し上げておきたいと思つています。

それでは、続きまして、消費税の問題と景気認識についてお伺いしたいと思います。先ほど来、昨日発表のありましたGDPの速報値をめぐつての議論が続いております。

議論を聞いておきますと、ファンダメンタルズはいいんだということをおっしゃいます。しかし、きのうのGDPの速報を見ましたら、家計消費もマイナス、設備投資もマイナス、輸出もマイナス。輸入は更にそれよりもマイナスになったから、これが押し上げ効果になったということですが、これも、先ほどの麻生大臣の答弁では、この輸入のマイナスというのは、国内の生産の落ち込みの反映もあるんじゃないかというような答弁もされておりました。

そうすると、本当にいいところがほとんどないというのが今度のGDPの速報値じゃないかというふうにも思いますが、大臣に確認したいと思つています。ファンダメンタルズはよいというふうに一方でおっしゃるわけですが、今度のGDP速報値、どこかにあらわれて

DTP速報値、どこかにあらわれていますか。

○麻生国務大臣 基本的に経済というものは、もろもろのものから判断をされて、総合的なものが最終的に出てくるので、一つ一つの事象を全部取り上げて、これがいいから、ちよつとこれは悪いからというふうなものではなくて、全体的なものでやつていくということになりますので、財政で見ましても経済で見ましても金融で見ましても、少なくとも今GDPは伸びておる、つい六、七年前まではマイナスだったんですからね、伸びていますよ、間違いなく。そして、物価等々につきましても、マイナス、デフレーションではない。そして給与は上がつておる。企業収益は史上空前。納められている税収も二十八兆円伸びた。GDPも、間違いなく人口が減つているにもかかわらず伸びた等々、これはファンダメンタルズがいいと言わざるを得ないんじゃないでしょうか。

○宮本委員 ですから、その大臣の言うファンダメンタルズのよさというのは今度のGDP速報値にはどうあらわれているのかというのを聞いて

だつて、消費はマイナスですよ、設備投資もマイナスですよ、輸出もマイナスですよ。輸入はもつと大きく下がつたけれども、そこには国内の需要の落ち込みがあるだろうというのが、先ほど麻生大臣が、川内筆頭理事との間で議論された中でおっしゃつていたことですよ。

そうすると、今度のGDP速報には、そのファンダメンタルズのよさというのはいくつかある。その点、今度のGDP速報値との関係で説明していただけるでしょうか。

○麻生国務大臣 今申し上げたような数字で、ファンダメンタルズのどの部分で、どこが悪くなつて、どこがよくなつておるかという話を個別にお聞きになりたいというところが御趣旨のようですね。少なくとも今、それで出た金はどこに行つたかといえ、個人の貯蓄にたまつてい